



かけこ

掛合分校
後援会
事務局
(0854)
62-0084



『小さな挑戦、小さな善行、大きな志』



校長 山崎 誠

連日猛暑が続いた夏でしたが、後援会の皆様にはいかがお過ごしでしたでしょうか。

さる七月六日から十二日にかけての大雨により、被害を受けられました皆様に心よりお見舞いを申し上げます。学校行事や地域活動はもちろん、日頃の教育活動において、地域の皆様から温かいご支援ご協力をいただいていることを実感しているだけに今回のことには心を痛めているところです。学校から明るい話題を提供していくことも復興復旧をしていく上では大事なことであり、今後ますます後援会地域の方とともに学校を盛り上げていくことを肝に銘じていきたいと思っています。

さて、春の風が、学校に花の匂いや鳥のさえずりを運ぶ四月、二十五名の新入生を迎え第六十九回の入学式を挙行しました。昭和二十八年創立三万屋高等学校掛合分校として設立認可され、令和五年(二〇二三年)に創立七十周年を迎えることは、入学式が挙行された回数からも実感することです。入学式、また始業式において共通の話題としたのが、今年度の出発にあたり定めた合言葉です。それが、「小さな挑戦、小さな善行、大きな志」。自立した大人となるために。自立した十八歳の大人として卒業するために何を心がけていくべきかという視点で考えた合言葉です。

自立といっても、自律の意味も含め様々な意味合いがあります。選挙権年齢はすでに十八歳に引き下げられ主権者としての自立も求められています。二〇二二年四月一日からは民法上の成年年齢が十八歳に引き下げられます。成人になると、保護者の同意なしに契

教職員異動のお知らせ

春の人事異動により、六名の教職員をお送りしました。在任中は、掛合高校の発展のためにご尽力いただき、ありがとうございました。新しく赴任された先生方には、これからお世話になります。

- 〇転任者
 - 校長 倉崎 千草
 - 副校長 吉川めぐみ
 - 地歴・公民科 山岡三男
 - 理科 大賀 学
 - 英語科 竹崎 紀子
 - 家庭科 川谷久美子
- 〇新任者
 - 校長 山崎 誠
 - 副校長 竹崎 修次
 - 地歴・公民科 岡 一宏
 - 理科 大門 透
 - 英語科 大野真由子
 - 家庭科 遠藤 聡子
 - 業務アシスタント 長谷川直人
 - 炊事員 板垣 菊枝

令和三年度入学式 〜新入生二十五名を迎えて〜

四月十二日(月)、掛合高校講堂において、令和三年度入学式が行われました。今年度の新入生は二十五名で、来賓の景山俊太郎後援会長と吉長雅昭PTA会長ご隣席のもと、晴れやかなムードの中で行われました。

新型コロナウイルス感染症対策で、残念ながら在校生は参加しませんでした。当日は天気も良く、明るい日差しが差し込む中で、新入生は掛合高校での新たな一歩を踏み出しました。

式辞の中で山崎校長先生から「小さな挑戦、小さな善行、大きな志」という言葉が贈られ、この言葉を学校での合言葉にすることが述べられました。相



手を気遣う気持ちを持って、絆のある学校を作っていくこと、それが誰にとっても安全・安心な学びの環境を作り、その中で人は挑戦し続けることができる。そして、

それぞれが確かな志をもち、あきらめず挑戦を継続することで人は成長できるということ、生徒に語りかけられました。また、新入生代表の藤原秀伍さんが、「ともに掛合分校で学ぶ同級生と協力し、助け合いながら、掛合分校の生徒としての自覚と誇りを持ち、心身ともに成長していきたいと思えます。そして、常に向上心を持ち、学業や部活動に励み、自分の進む道を見つけ、しっかりと歩んでいくために日々努力することをここに誓います。」と力強く宣誓しました。



ました。今年は、残念ながら掛合高校名物の桜の季節とは重なりませんでした。が、桜に勝る笑顔あふれる一日となりました。

遠足 永井隆記念館、松江フォーゲルパーク

四月二十三日(金)、掛合高校の全学年がそろって遠足に出かけました。今年度の遠足の行き先は、三万屋町の「永井隆記念館」と宍道湖北岸にある「松江フォーゲルパーク」でした。

当日は、学年毎に三台のバスに乗り込み、まずは「永井隆記念館」を訪れました。リニューアルした直後というところもあり、施設内はとてもきれいに整



備されていた。各学年ローテーションで、永井隆博士の生涯を説明したビデオの視聴、陳列された永井博士直筆の手紙など各種資料の見学、整備された庭園の散策や図書館の見学をしました。地元出身の偉人の偉大な功績を初めて知る生徒も多く、平和の尊さを改めて確認するとてもよい機会となりました。

また「松江フォーゲルパーク」では、園内を飾る花の数に多くの生徒が圧倒されていました。置物と間違えるようなフクロウやかわいらしいペンギン、「動かない鳥」として有名なハシビロコウなど、全国的にも知られるアミューズメントパークを生徒は思い思いに楽しめました。芝生広場で行われたバーディーショーでは、頭上すれすれに飛ぶハ



ヤブサヤタカの大きさに驚く生徒も見られました。当日は天気も良く、友人との親睦も深まるとても有意義な一日となりました。

一年生 地域学習 掛合町内フィールドワーク

六月八日(火)、掛合高校一年生が掛合町内の五地区に分かれて、地域の現状と課題を調査し、課題解決に向けた提案を行う学習活動が、本格的にスタートしました。

この日は、一年生二十五人が五人ずつ五グループに分かれ、掛合町内各地区(波多、入間、掛合、松笠、多根)の交流センターを訪れました。各地区自治組織の代表の方から、各地区の現状や課題などについて説明を受け、生徒からの質問に答えていただきました。このうち、掛合地区では、掛合交流センターの白築敏彦センター長からの説明のあと、酒蔵「竹下本店」内にある「かけこ酒蔵資料館」や道の駅「掛合の里」緑地公園などを案内していただき、掛合地区の魅力伝えていただきました。

また、松笠地区では、松笠自治振興協議会の板持保吉会長の引率で、「日本の滝百選」にも選定されている「龍頭が滝」を見学しました。生徒はその迫力に圧倒されていました。

多根



入間

松笠



今後は「総合的な探究の時間」の中で、各地区の現状と課題をまとめることにも、課題解決策について、高校生の目線での新たな提案を行う学習活動を行い、秋の文化祭等で発表する予定です。

二年生 探究学習
吉田町内農家とのコラボ

五月十一日(火)、掛合高校二年生が宇山営農組合、雲南市等と協働しながら取り組む探究学習が本格的なスタートを切りました。



この日は、雲南市吉田町民谷宇山地区を訪れ、宇山営農組合様のご指導のもと、水田で稲の手植えを行いました。現地に着後、この地では「うるちやま米」(品種は「コシヒカリ」)また

掛合



波多



は「つや姫」の特徴などについて説明を受けました。お昼は、宇山営農組合様に準備していただいた「うるちやま米」を使ったカレーライスを食べました。その後、いよいよ田植え体験。一時間半近くの時間をかけ、およそ十アールの水田に稲を植えました。初めて体験する生徒、教職員も多く、悪戦苦闘しながら、何とか予定されていた区画に稲を植えることができました。



六月十七日(木)には、宇山営農組合の藤井章組合長と須山光雄副組合長をお招きし、インタビューを行う活動を行いました。生徒からは「宇山地区でおいしいお米がとれる秘訣は何か」「うるちやま米を最もおいしく食べられる食べ方は何か」などたくさん質問が投げかけられ、それらの質問に丁寧に答えていただきました。また、七月二十日(火)には、有限会社藤本米穀店(松江市)代表取締役社長の藤本真由様、有限会社アエラ地域文化デザイン室(松江市)代表取締役の影山邦人様、同じく安田陽子様をお招きし、販売戦略に関するお話を伺うことができました。

今後は、自分たちが植えた稲の稲刈りを行い、高校生の目線で販路拡大等について新たな提案を行う予定です。



三年生 キャリア学習
就職ガイダンス、林業体験

七月二日(金)、広島から外部講師二名をお招きし、掛合高校三年生を対象に就職ガイダンスが行われました。



最初に、講師の先生から働くことの意味や多様な職業に関する理解などについて、講義を受けたあと、面接等への対策として、自己アピール文の作成、模擬面接などの演習を行いました。

就職・進学を控えた生徒は、全員が真剣な表情で全てのプログラムに積極的に取り組んでいました。進路選択の前に、自分自身を振り返る大変よい機会になりました。



また、七月十五日(木)、飯南町にある島根県中山間地域研究センターにおいて、中山

間地域の現状と課題を認識することを目的に、林業体験学習が行われました。午前中



は、同センターの広大な敷地内にある、鳥獣対策やきこ類栽培の研究施設等を見学した後、薬用としての効果が注目されている、クロモジの葉を使ったお茶の試飲を行いました。午後は、林業体験学習として、ドロインの操作実習や丸太の切り出し体験、VRを使った木材の伐採・運搬の体験など、島根県の林業の現状や同センター

における研究成果について、体験的に学ぶことができました。生徒はたくさん機器に触れ、島根県の林業の先進性を肌身で感じることができたようでした。

地域・社会への貢献活動
ごみゼロ、掛小読み聞かせ



六月十七日(木)、掛合町内の保小・中・高が連携して毎年行っている活動「ごみゼロ大作戦」に全校生徒が参加しました。この日は、四校園の児童・

生徒が町内各地区に分かれ、それぞれ指定された場所の清掃活動を行いました。各地区とも高校生の進行により開会式を行った後、グループごとに自己紹介を行い、その後清掃活動に入りました。それぞれの場所で保小・中・高校生と大人が声を掛け合い、助け合いながら清掃活動に汗を流しました。また、地域への貢献活動として、掛合高校の生徒が月一回のペースで掛合小学校を訪れ、朝礼の時間を利用して小学生に絵本の読み聞かせを行っています。



当番の生徒は、あらかじめ図書館などで探してきた絵本を実物投影機で表示しながら、小学生に優しく読み聞かせます。緊張して練習の成果を十分に出不せない生徒もいますが、各自が聞き手にわかりやすく伝えることの大切さを学ぶことができるといふ効果も生まれています。

今後このような校種を越えた連携による地域・社会への貢献活動を続けていく予定です。

令和三年度体育祭
全員の心をひとつに

七月十日(土)、令和三年度体育祭が開催されました。大雨の影響もあり、当初予定していたグラウンドでの開催を変更し、掛合体育館を会場として行われました。大会テーマは「勲力協心(りくりよきようしん) 全員の心をひとつに」で、開会式では赤組色長の山野内陸斗さんと青組色長の青木涼さんが高らかに選手宣誓を行った後、八種目の競技が行われました。「借り物競走」では、バスケットのフリースローを入れてからボールを持って帰る、観客席の保護者を連れてゴールするなどの難題が示され、苦戦しながらも楽しく競技に取り組みました。相手のユニフォームを借りてゴールするというお題には、お互いのユニフォームを取り合いながらゴールしたために、両者失格となるという一幕もあり、場内の笑いを誘っていました。



メインイベントとなる「応援合戦」では、この日のために練習を積み重ねてきたダンスを、両軍とも華麗に披露しました。手作りの衣装や背後に見える鮮やかなデコレーションが彩りを添え、両軍とも練習の成果を遺憾なく発揮しました。

総合得点では赤組の勝利となりましたが、両軍ともに一生懸命走り、競技する姿に、会場からは惜しみない拍手が送られていました。閉会式後には、色別に反省会を行い、それぞれ三年生がこれまで頑張ってきた思いを後輩たちに語りました。何事にも真剣に、ひたむきに、そむきながら取り組む姿は、



今後も後輩たちに引き継がれ、掛合の良き伝統として残っていくことを祈ります。当日は、保護者の皆様にはジュースの販売にご協力いただきました。誠にありがとうございました。



赤組



青組



事務局より

平素より、後援会の皆様には掛合高校の教育活動に、格別のご理解とご尽力をいただき、また会費の納入にもご協力いただきありがとうございます。生徒の学習活動や施設の充実に役立てて参ります。今後とも変わらぬご支援、ご協力をいただきますようお願いいたします。



かけこう

掛合分校
後援会
事務局
(0854)
62-0084



『地域とつながる』



校長
山崎 誠

掛合高校も、二〇二三年、つまり来年には創立70周年を迎えます。人間で言えは古希です。古希は珍しいほど長生きである、つまり希(まれ)であるという意味があるそうです。70周年を迎えることができるのも、ひとえに後援会の皆様、地域の皆様を支えられ応援されてきたからだと思っています。心よりお礼申し上げます。

さて、十二月に演劇同好会の自主公演が、三刀屋高校と合同でチェリヴァホールを会場にありました。同じ時期に、松江であった全国高等学校文化連盟(通称:高文連)の大会でも上演する機会があり、それを観た県外の管理職の先生から、感動したことを伝えたいと校長室あてに電話やメールが届きました。まったく面識のない先生方です。讀まない衝動に駆られての行動だったと思います。

そのうち、電話をくださった茨城県の県立高校の校長先生が、校長室より(校長メッセージ)に書かれた文章を紹介いたします。

「二年ぶりに、全国の高校文化関係者が一堂に会して島根県松江市で開催された全国高等学校文化連盟研究大会、演劇のワークショップでは、三人の生徒の皆さんが演ずる実際の舞台を見るのができた。彼らは「島根県立三刀屋高等学校掛合(かけや)分校」、冒頭に触れた「その学校」の「演劇同好会」の皆さん、キャストが三人と少数であり、一人で何役もこなしながらの演技となる。ボイスパーカッション等も取り入れたそのパフォーマンスには圧倒された。最後に彼らから発せられた「満員



SINCE 1953

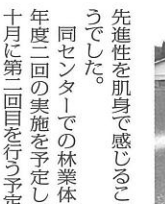
のお客さんの前で演劇がやりたい」という叫びは今も胸から離れない。学校ホームページを拝見すると、全校生徒は69人(五月一日現在)。このパフォーマンスに前後して、演じた生徒さんにインタビューした動画が流れた。ふるさとへの想いがひしひしと伝わる温かなもの。新学習指導要領にも示される「家庭や地域社会との連携及び協働」が求められる。これからの高校の姿の一つの理想を見るような思いがした。

同じ頃、これは別の分校生徒との関わりの中で、「家庭や地域社会との連携及び協働」が求められる。これからの高校の姿が分校にはあるとお褒めの言葉で綴られたお便りももらいました。

今年度は、はじめて宇山農業組合、雲南市とコラボして田植えから販売までの取組をさせてもらい、メディア等でも取り上げていただきました。この体験を通じた学びは非常に大きかったと思えます。そのほか、農業体験学習や林業体験学習、職場体験学習など様々な教育活動で地域のみなさまは大変お世話になりました。

コロナ禍にあつて、お互いが励まし頑張ることは、お互いがそれぞれ前に向かっていく気持ちを持つことができません。また、こうした評価をいただくのも、日ごろより後援会のみならず、地域のみなさまに支えられ、応援されているからこそでもあります。

充実した教育活動を行うことができそうです。今後とも掛合高校の生徒達を温かく導いてくださいますようお願いいたします。



先進性を肌身で感じる事ができたようでした。



同センターでの林業体験学習は、今年度二回の実施を予定しており、次は十月に第一回目を予定します。

同センターの広大な敷地内にある、鳥獣対策やきのこ類栽培の研究施設等を見学した後、葉用としての効果が注目されている、クロモジの葉を使ったお茶の試飲を行いました。その後、地域研究科の貫田理紗研究員に講演いただいた。途中、地元定住に関するワークショップなど、地元定住しながら、中山間地域の現状と課題について理解を深めることができました。



この日は、七月十五日(木)、飯南町にある島根県中山間地域研究センターにおいて、三年生が林業体験学習を行いました。

九月八日(水)と九日(木)の二日間、一年生が掛合町内八カ所の事業所に分かれて、農業体験学習を行いました。農業体験学習を行ったのは、飯石森林組合、だんだんファーム(以上、掛合地区)、板持農園(下組加所(以上、松等地区)、岡田牧場、クワシック島根力ナトリック(以上、多根地区)、別木農園・松村農園(入間地区)、波多交流センター(波多地区)の八カ所です。一年生は、年度当初から掛合町内五地区に分かれ、それぞれの地区の調査・探究学習を行っており、今回はその担当地区で農業体験学習を行いました。

このうち、別木農園ではトルコギキョウの栽培が行われており、

生徒たちはハウスに入って園芸用ネットの手入れを行いました。また、下組加工所では梅を漬して梅肉に加工する作業を行いました。最初は慣れない手つきで作業を行っていましたが、受け入れていただいた事業所の方や交流センター職員の皆様の指導を受けながら、緊張感の中にも楽しさを感じながら体験学習を行うことができました。

このうち、別木農園ではトルコギキョウの栽培が行われており、

九月九日(木)、二年生が地元企業見学に出かけました。この日は株式会社アルプン島根工場(雲南市加茂町)、雲南市木次経済文化会館チェリヴァホール(雲南市木次町)、株式会社吉田ふるさと村(雲南市吉田町)、島根イーグル株式会社、協栄金属工業株式会社

それぞれの地区の特色や課題の解決策についてまとめてきた内容を発表しました。二年生は同じく年度当初から吉田町民谷宇山地区の農家とコラボで取り組んできた、ブランド米「うやま」の販売促進戦略について、その取組の成果を発表しました。会場入り口のロビーでは、宇山管農組合の皆さんによりそ

をより一層高めるための方策についてボスター発表を行いました。午後、図書委員主催で「プリオパトル」が行われ、出場者五人が自分の紹介したい本について熱く語りました。また演劇同好会が、九月に行われた出雲・石見地区高校生演劇発表会で演じた演目「流れ・流れ・流れ」を全校生徒の前で発表しました。

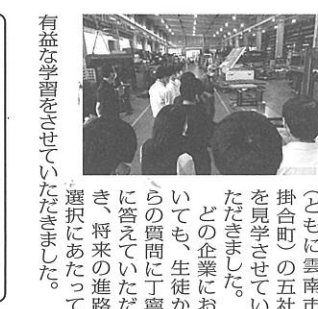
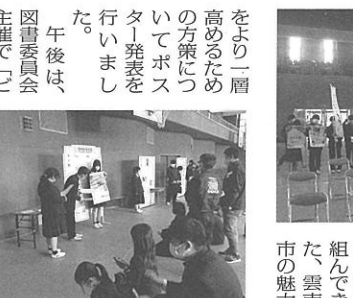
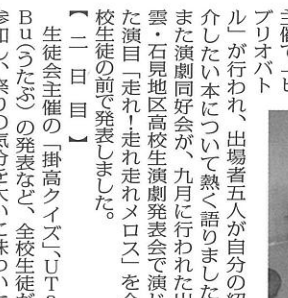
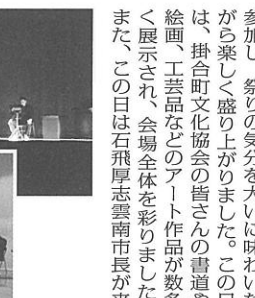
十一月五日(金)と六日(土)の間、掛合体育館において令和三年度文化祭「掛高祭2021」を開催しました。

また三年生は、学校設定科目「地域創造」で七グループに分かれて取り組んでいた雲南市の魅力

のコロナの新米が特別価格で販売され、二年生が作成した販売促進のためののぼりやPR動画の効果もあり、たさんのお客で大盛況となりました。

また三年生は、学校設定科目「地域創造」で七グループに分かれて取り組んでいた雲南市の魅力

また三年生は、学校設定科目「地域創造」で七グループに分かれて取り組んでいた雲南市の魅力





場され、生徒全員に向けてメッセージをいただくとともに、三年生がまとめたポスターをじっくりと観ていただきまして、PTAでは、PTAの皆さんにご協力いた



いたPTA Cafeが開かれ、フイードデザイン、選択生徒が作った焼き菓子販売に合わせ、温かいコーヒーやお



販売され、生徒や保護者、地域の来場者など多くの方が買い求めています。学校を取り巻く数多くの方の温かいご協力のおかげで、生徒たちがこれまで準備してきた成果が形となって表れる充実した二日間となり、今年度の文化祭は大盛会のうちに幕を閉じました。

「吉田町農家とのコラボ米」「うやま米」新米特別販売会

十一月十三日(土)と十四日(日)の二日間、二年生が吉田町民谷山地区の宇山営農組合とのコラボにより取り組んできたブランド米「うやま米」を応援するプロジェクトの総仕上げとして、道の駅「たたらは香番地」(松江自動車道「雲南吉田IC」隣接)において、そのコラボ米(新米)の特別販売会を行いました。



この二日間は、店舗の屋外に特設テントが建てられ、生徒がデザインしたたぐさのほりやポスターをお客さんを出迎える中、プロジェ



クトに携わってきた二年生が自らデザインした衣装(はっぴ)に身をくくるみ、宇山営農組合の皆さんとともににお米やおにぎりの販売を行いました。



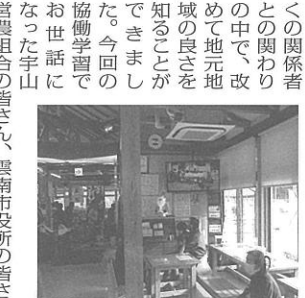
また店内では、生徒が作成したPR動画が大型モニターで常時上映され、訪れたお客さんにも「うやま米」の特別な特徴をおいしさやアピールした他、特設の販売コーナーでは生徒が作成した販売促進のためのPOP(店頭プロ

モーション)が商品棚を飾り、県外からの観光客を含む多くのお客さんが販売コーナーの前で足を止めて、商品を手にとっていました。十三日(土)には、石飛厚志雲南市長や貴山明雲南市長、委員会教育長にも足を運んでいたが、生徒からのお米の特徴についての説明を熱心に聞いていただきました。

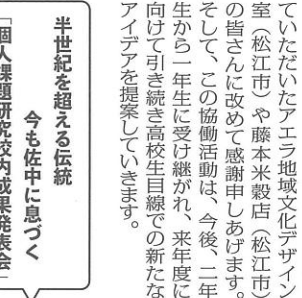
販売された「うやま米」には、宇山営農組合と掛分校とのコラボを表す生徒デザインのシンボルマークのシールが貼られ、この二日間は、準備したお米が概ね完売となるほどの賑わいとなりました。春先の田植えから始まり、秋に自ら刈り取った稲がこのような商品となっ



てお客さんの手元に渡ると、一連の流れを肌身で感じることができ、二年生にとっては大変有意義な体験学習となりました。また多



くの関係者との関わりの中で、改めて地元地域の良さを知ることができました。今回の協働学習でお世話になった宇山営農組合の皆さん、雲南市役所の皆さん、ゲストティーチャーとして指導していただいたアエリア地域文化デザイン室(松江市)や藤本米穀店(松江市)の皆さんに改めて感謝申し上げます。そして、この協働活動は、今後二年生から一年生に受け継がれ、来年度に向けて引き続き高校生目線での新たなアイデアを提案していきます。



半世紀を超える伝統 今も佐中に息づく 「個人課題研究校内成果発表会」

過去の周年記念誌を紐解くと、掛分校の卒業研究発表会は昭和44年度に始まったとあります。爾来、研究内容を横道紙やOHPで表現したのから、現在のプレゼンテーションソフトを用いたものまで、発表スタイルこそ変わっても生徒が主体的に取り組んだ画期的な問題解決型学習として、半世紀を超える長い歴史を刻



てお客さんの手元に渡ると、一連の流れを肌身で感じることができ、二年生にとっては大変有意義な体験学習となりました。また多



んできたのです。今年度から名称を「個人課題研究校内成果発表会」と変えたこの卒業研究発表会は、今や生徒の自主

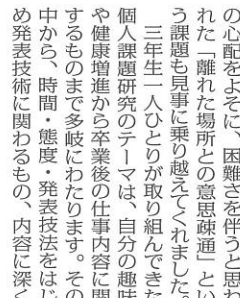


的・主体的探究活動として、掛分校の学習活動を語る上で、なくてはならないものとなっています。当日は卒業を前にした三年生が、令和四年二月九日(水)の十時過ぎから音楽室を会場として、ステージからそれぞれに個別発表を繰り広げると、ネットワークで結ばれた二年生の各教室



も、三年生が身近な題材に着目した上で、自分で仮説を立てながら検証し、言葉で持ち込む個人研究の醍醐味を肌で知ることができた貴重な機会となったはず。掛分校史上初めとなるリモート開催による卒業研究発表会は、不慣れた機器操作など事前の心配をよそに、困難を伴うと思われた「離れた場所との意思疎通」という課題も見事に乗り越えてくれました。

個人課題研究のテーマは、自分の興味や健康増進から卒業後の仕事内容に関するものまで多岐にわたります。その中から、時間・態度・発表技法をはじめ発表技術に関わるもの、内容を深く



「子ども好き嫌いなくそけい野菜が食べられるようになるために」



関係する調査方法や創意工夫の有無など、総合的な観点からは熟意や視聴者への伝達力などを点数化して評価し、優秀賞を決定します。審査の結果、優秀賞の受賞者は次のように決まりました。

- 優秀賞 岡田 結実
優秀賞 フォアトレッドって知っていますか?
優秀賞 松本 菜々美
優秀賞 「子どもの好き嫌いをなくそう!」野菜が食べられるようになるために
優秀賞 須山 良太
優秀賞 フースフルーツで笑顔を増やそう!

第66期の卒業生 慣れ親しんだ 学び舎をあとに

令和四年三月一日(火)午後一時半掛分校の令和三年卒業証書授与式が執り行われました。新型コロナウイルス感染症拡大を防止するために、原則として、後援会長様・PTA会長様以外は卒業生と保護者のみという随分寂しいものとなりましたが、旅立ちの日を迎えた20名の掛高生は、三年間お世話になった先生や地域の皆様、支え合った仲間との別れを惜しみつつ共に過ごした思い出深い学び舎をあとにしました。

思い起こせば三年前、義務教育を終えたばかりのまだ初々しい生徒達は、期待と不安の交錯した眼差しを我々に



向けていたことが、昨日のことのように脳裏に甦ります。それもそのはず、高校に入学すれば一遍に環境が変わると同時に、それそれの中学校区より広域の、たぐさんの中学校から生徒が相集うため、まずは友達つりから始めなければなりません。まして分校では三年間クラス替えもなく、同じメンバーで学校生活を送ります。心配や不安があっても、前を向いて進んでい



が、昨日のことのように脳裏に甦ります。それもそのはず、高校に入学すれば一遍に環境が変わると同時に、それそれの中学校区より広域の、たぐさんの中学校から生徒が相集うため、まずは友達つりから始めなければなりません。まして分校では三年間クラス替えもなく、同じメンバーで学校生活を送ります。心配や不安があっても、前を向いて進んでい



が、昨日のことのように脳裏に甦ります。それもそのはず、高校に入学すれば一遍に環境が変わると同時に、それそれの中学校区より広域の、たぐさんの中学校から生徒が相集うため、まずは友達つりから始めなければなりません。まして分校では三年間クラス替えもなく、同じメンバーで学校生活を送ります。心配や不安があっても、前を向いて進んでい



が、昨日のことのように脳裏に甦ります。それもそのはず、高校に入学すれば一遍に環境が変わると同時に、それそれの中学校区より広域の、たぐさんの中学校から生徒が相集うため、まずは友達つりから始めなければなりません。まして分校では三年間クラス替えもなく、同じメンバーで学校生活を送ります。心配や不安があっても、前を向いて進んでい

しているところです。保護者の皆様方におかれましても、遅く成長されたお子様の晴れの姿をご覧になり、感慨もまたひとしおであったことでしょう。

